

〔『法学新報』第25卷1(282)号 大正4年1月1日〕

○中央大学講師浅田栄次氏逝去 東京外国語学校教授浅田栄次氏は去十一月九日午後一時十分頃前記学校書庫に於て図書検閲中突然脳溢血症にて卒倒し充分なる手当を試みたるも其効なく同日六時頃溘焉として逝去せられたり享年五十歳氏は山口県の人にして慶応元年四月二十八日都濃郡徳山町に生る明治十七年上京して東京英和学校即ち今の青山学院に入学し須臾にして工部大学校に転ず当時入学試験及第優等の故を以て官費生たらしめらる十九年同大学予科卒業後第一高等中学校に入り二十年九月帝国理科大学数学科に入り二十一年退学同年四月渡米して合衆国イリノイス州ウエスタン大学に入り二十四年五月卒業「パチエロル、オブ、デイヴィニティー」の学位を受け特に優等賞金貨米三百弗を授けらる同九月ニューヨーク府コロンビヤ大学大学院博言科並同府ユニオン神学校卒業生研究科に入学「セミチック」語学を専修し二十五年十月シカゴ大学大学院博言科に入学す当時競争試験優等成績に依り再び米貨五百弗の奨学金を受く二十六年六月「ドクトル、オブ、フキロソフイー」の学位を得て卒業、其より帰朝して同十月青山学院教授と為り三十年五月東京高等商業学校英語科講師に任せられ同八月同校附属外国語学校教授に任せられ三十二年七月同校か独立して東

京外国語学校と為るや氏は其教務主任を命せられ爾來十七年間  
精勤英語の教授に努められたり又氏は三十六年中聘せられて吾  
中央大学に教鞭を執られ非常の熱心を以て育英の事業に与り近  
年は同校英語会会長として科外に於ても英語指導の任に当らる  
氏は人と為り端正嚴肅を以て聞え世の儀範たるに足る然るに今  
や斯人既に無し惟ふに人世は真に朝露の如きか吾人は学界の為  
め痛悼の至りに對<sup>つ</sup>ゑざるなり哀哉